



写真:南阿蘇村河陽地区からの遠望

2016/5/2

大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会 (JRAT) の活動に参加しました

リハビリテーション科 科長 まにわ 馬庭 そうきち 壯吉

被災から2週間が経過した5月1日から4日まで、島根 JRATとして益田赤十字 OT 大賀氏、本院 PT 江草、野口とともに熊本に参りました。JRATの現地本部は熊本機能病院におかれ、移動手段は熊本駅前借りたレンタカーでした。初日は熊本市東区内の避難所となっている託麻西小学校、尾ノ上小学校、東稜高校を訪問しました。環境調整(ダンボールベッド導入、濡れ雑巾などアレルギー除去のアドバイス)、避難者のスクリーニング(深部静脈血栓症、鬱状態など)が主な業務でした。

5月2日からは南阿蘇村へ移動し、日赤、JMAT、民医連、国境なき医師団、派遣保健師、DPAT、歯科医師会、薬剤師会と協力し支援活動を行いました。ここでは避難所と在宅での個別対応(起立動作のための椅子設置、脳卒中後遺症の方への装具処方、歩行器調整、運動訓練、運動指導)を行いました。被災者の話を傾聴することも重要な活動であることを痛感しました。被災地の一日も早い復興を祈っております。



避難所での日課(南阿蘇中学校体育館)

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

6月15日～7月14日

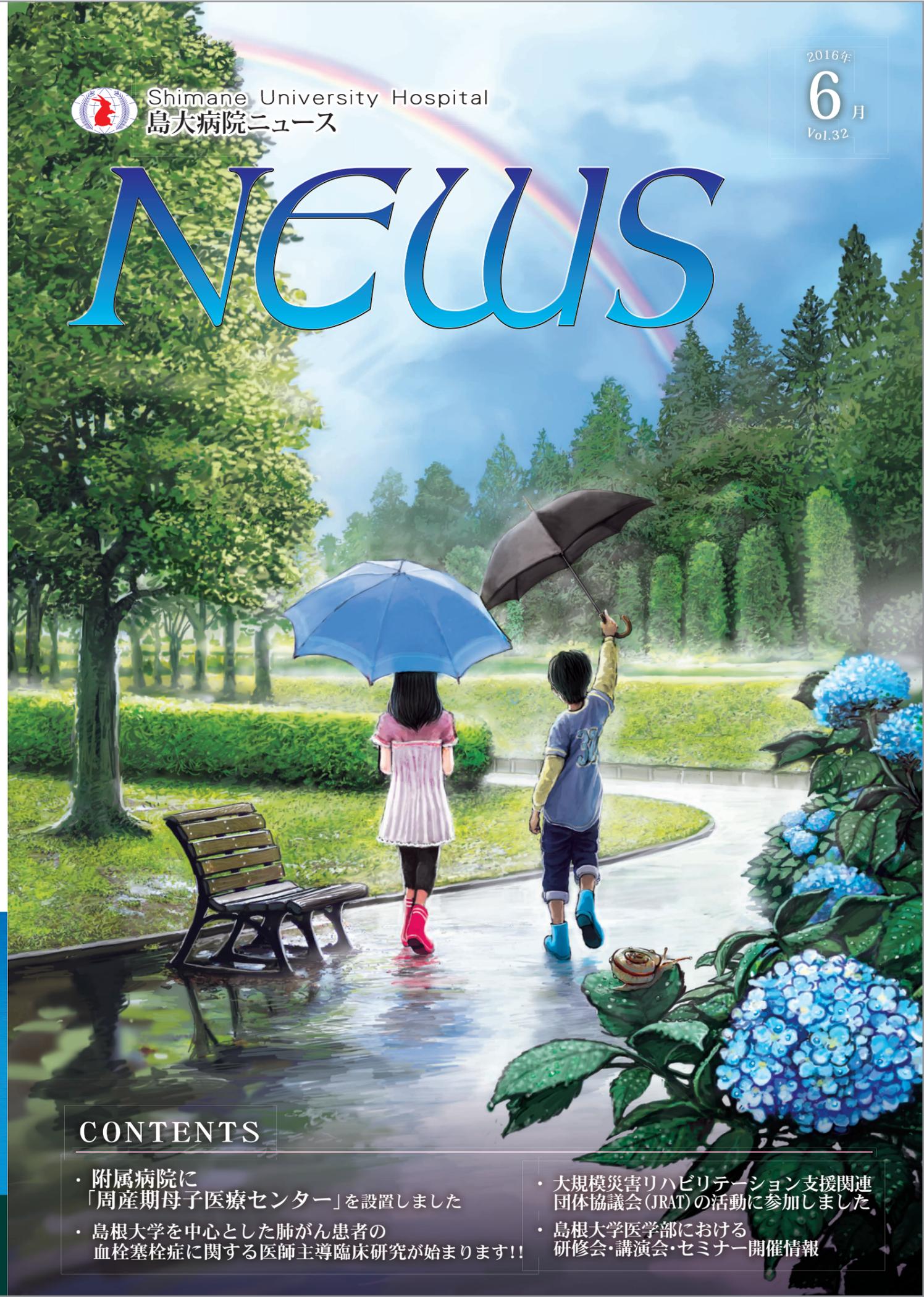
対象者: **一般** 一般市民 **医療** 医療関係者 **本学** 本学教職員・学生

開催日	時間	開催名	場所	対象者
6/15(水)	9:30～11:30	平成28年度 島根県がんビ°アサホ°ター相談会	外来・中央診療棟3階 カフェテリアムだんだん	一般
7/3(日)	13:30～16:00	第6回 島根大学医学部内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学 市民公開講座 「喘息の治療と管理を極める」	みらい棟4階 ギャラクシー	一般

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



CONTENTS

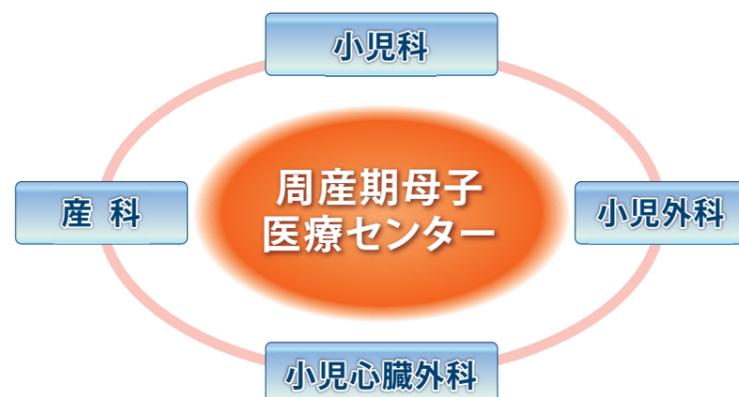
- ・ 附属病院に「周産期母子医療センター」を設置しました
- ・ 島根大学を中心とした肺がん患者の血栓塞栓症に関する医師主導臨床研究が始まります!!
- ・ 大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会(JRAT)の活動に参加しました
- ・ 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報



附属病院に 「周産期母子医療センター」を設置しました

周産期母子医療センター センター長 かなさき はるひこ
金崎 春彦

当院は島根県地域周産期母子医療センターに指定され、本年4月1日に医学部附属病院内に「周産期母子医療センター」を設置しました。センター化に伴い、妊娠合併症や胎児異常などのリスクの高い妊婦、低出生体重児や病気や異常を持つ新生児を出生前から分娩・治療に至るまで集学的に管理する体制が整いました。本年8月からは新生児集中治療室(NICU)6床、新生児回復治療室(GCU)6床を附属病院3階の分娩室隣に移転・改修して機能を強化し、最終的にはGCUを12床とします。母体や胎児・新生児に生じる突発的な事態に24時間体制で対応して高度な専門医療を提供する母子の為に救命救急センターとしての役割を果たします。正常分娩の管理、無痛分娩の他、妊婦母体急変時15分以内の娩出を目指す超緊急帝王切開への対応が可能です。また新生児搬送の受け入れも常時行っています。当院は新生児に対する外科的治療が可能な県内唯一の施設でもあります。実績と実力ある小児科、小児外科、小児心臓外科を背景としてハイリスク妊婦に対応し、島根県内の全妊婦さんに責任を持ち、高度な周産期医療を島根県内で完結させます。



問合せ先 周産期母子医療センター TEL:0853-20-2389(産婦人科外来)

島根大学を中心とした肺がん患者の 血栓塞栓症に関する医師主導臨床研究が始まります!!

呼吸器・化学療法内科 講師 つばた ゆかり
津端 由佳里
教授 いそべ たけし
磯部 威

がん患者に血栓塞栓症の合併が多いことは以前から知られていますが、近年、DOAC(direct oral anticoagulant)と呼ばれる新規抗凝固薬の開発が進んだことから、がんと血栓塞栓症の関係が改めて注目されています。そこで、当院呼吸器・化学療法内科を中心に日本全国で1000例の肺がん患者を対象とした静脈血栓塞栓症(VTE)の発症頻度を前向きに検討し、また、血栓塞栓症を発症した患者に対してはDOACの一つであるエドキサバン(リクシアナ錠®)を内服していただき、その有効性と安全性を検証する臨床研究(略称: Rising-VTE study)をスタートさせることになりました。日本人肺がん患者のみを対象とした血栓塞栓症の大規模な前向き研究は国内初であることから非常に注目度が高く、患者登録は6月からを予定しておりますが、すでに全国各地の大学病院・がん診療連携拠点病院の参加が決定しています。

また、本研究のもうひとつの特徴は、その研究実施体制にあります。通常、市販後に行われる医師(研究者)主導臨床研究は、JCOG(日本臨床腫瘍研究グループ)やWJOG(西日本がん研究機構)といった、多施設共同臨床試験グループを主体に実施することがほとんどですが、本研究は資金提供元である第一三共株式会社と島根大学との直接委受託契約によって行われます。医師主導臨床研究の実施は非常に規制が厳しく、すべての関係者が高い倫理感を持ち、組織として機能的に研究が行える体制が整備されたグループのみが実施可能であり、島根大学はそれに値すると認められ今回の実施に至りました。第一三共との契約締結までも本部会計課や臨床研究センターの皆様に尽力いただきましたが、試験開始後も島根大学が一丸となって遅滞なく完遂を目指す所存です。

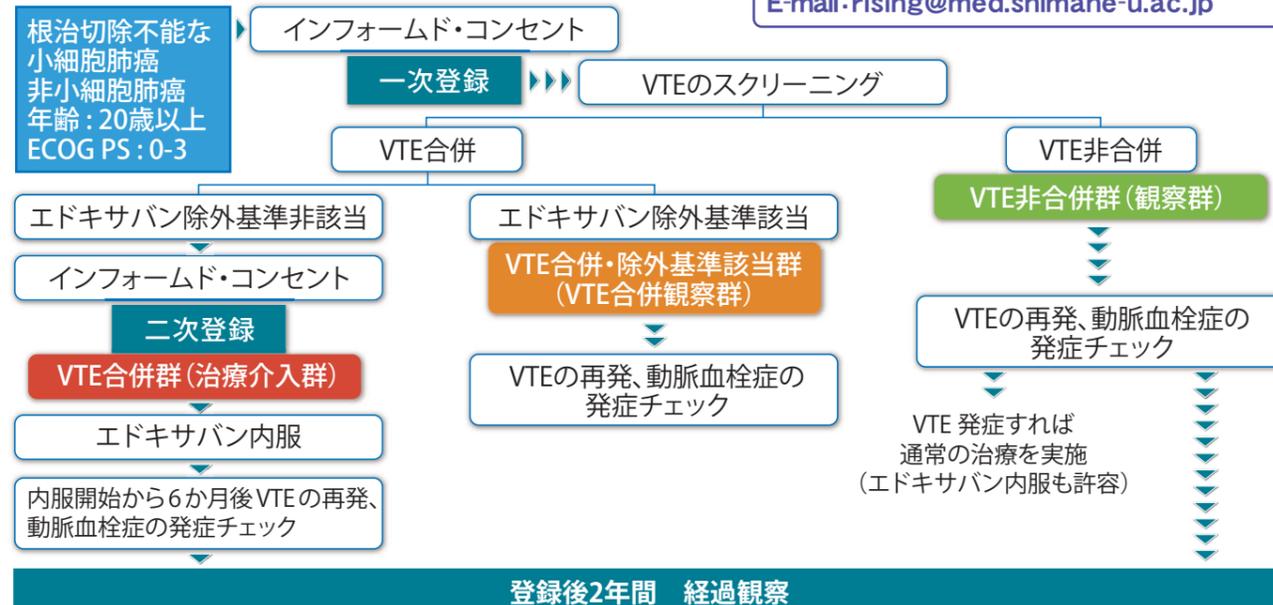
肺がんを疑う患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当科へご紹介いただきますよう、お願いいたします。



Rising-VTE studyのデザイン

Rising-VTE研究事務局 問合せ先

TEL&FAX:0853-20-2578 (呼吸器・臨床腫瘍学内)
E-mail: rising@med.shimane-u.ac.jp





島大病院ニュース
2016年6月

ご報告



島大病院ニュース
2016年6月

ご報告

第2班活動報告

高度外傷センター 講師 ひら えいじ
比良 英司

第2班は4月18日10時に島根大学を出発し、4月18日19時過ぎに参集拠点の阿蘇医療センターに到着して、翌19日から活動を開始しました。朝7時のミーティングでその日のミッションと活動目標が伝えられ、第2班は阿蘇医療センターの診療支援を4チームのDMATでおこなうことになりました。19日と20日は日中の予約外外来とERでの救急車対応、19日の準夜・



夜間は院内待機を命ぜられ36時間体制で診療支援をおこないました。19日は6台、20日は11台の救急車を受け入れましたが、中には倒壊した自宅の片付け中の転倒・転落、車内生活による深部静脈血栓症・肺血栓症の疑い、長く続く救護所生活による動悸、めまい、不眠などの急性ストレス障害といった災害特有の疾患も多く見られました。われわれの班の活動は阿蘇地方の中枢である阿蘇医療センターの診療支援という形でしたが、DMATが地域の医療機関が正常な診療体制を取り戻すまでの『つなぎ役』としての役割を担うことの重要性を学ぶ機会でもありました。この度の活動に関して、病院長や各隊員の関連部署の皆様におかれましては多大なるご協力をいただき大変感謝しております。今後も迅速で的確な活動ができますよう隊員一同精進しますので、引き続きDMATの活動にご協力頂ますようよろしくお願い致します。ありがとうございました。



熊本 - 大分地震一次隊活動報告

一次隊リーダー 消化器・総合外科 きだに あきひろ
木谷 昭彦

平成28年4月16日午前1時25分熊本地方で震度7の地震が発生。派遣要請メールに従い、熊本赤十字病院へと救急車で向かいました。前震の際に準備を行っていたため県内では最速の出動であり、16日14時半頃より24時間のDMAT本部活動、18日は避難所スクリーニング活動を行いました。本部では、各地から参集したDMAT隊とその資器材の管理・派遣の調整を行う業務を中心に活動しました。発災直後のため、情報が不十分な中での活動でしたが、DMATの本質である「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」として如何に初動すべきかを経験しました。避難所では、避難状況や感染症患者の有無、ライフラインや衛生面などの情報を収集しEMIS上で情報共有するといった活動を行いました。

今回、迅速な出動を可能にした背景として、病院長および各隊員所属部署による多大なる院内バックアップ体制がありましたこと深く申し上げます。大震災は必ずやってきますので、今後も病院・地域をあげての災害対策が必要です。DMAT隊一同も訓練などを通して精進して参りますので、今後とも災害対策についての御理解の程宜しく申し上げます。



お知らせ
島大病院ニュース

平成28年6月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



お知らせ
島大病院ニュース

平成28年6月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース
2016年6月

ご報告

島根県 DMAT

(島根県混成チーム、島根大学 DMAT 第3次派遣隊)活動報告



救急医学講座 准教授 たきなみ よしかず
瀧波 慶和

我々第3次派遣隊は、余震の続く熊本地震被災者の支援に向け、県立中央病院：森医師、田口看護師、吉田事務員、島根大学：瀧波、済生会江津総合病院：山口放射線技師、服部看護師が第3次隊として現地支援に向かいました。日程は4/20-23、実活動は、4/21に島根大学医学部救急車を利用し、余震・土砂崩れのあった南阿蘇地区の9か所の避難所巡回を行いました。避難者の健康状態、衛生状態、インフラ状況などを調査し、EMIS(Emergency Medical Information System)のアクセス情報の更新を行いました。激しい雨風でびしょ濡れになりながら、紙媒体にメモするのがやっとの状態、パソコンは使えず、島根大学DMAT活動調整本部には道案内、EMIS代行入力と大変協力いただきました。4/22は、阿蘇医療センターの救急外来担当となり、肺炎からの心不全、血管迷走神経性失神、足関節捻挫、ガラス刺傷、などの診療を行いました。



お知らせ
島大病院ニュース

平成28年6月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース
2016年6月

お知らせ



病棟で、ペットと過ごすひとときを

感染対策室 室長 もりた えいしん
森田 栄伸

島根大学医学部附属病院では、患者さんからの要望にお応えして、緩和ケア病棟と小児センター病棟でペット(小型犬に限る)の面会を認めることといたしました。

外国の医療施設で重症の患者さんにペットの面会を許可したところ、患者さんの体内に自然免疫を高める成分が増加し、治療上有益な効果が得られたというニュースもでています。しかし病棟でのペットの面会に際しては、衛生面、騒音、動物アレルギーなど様々な問題が予想されます。当院ではそれらの問題を検討した上で、一定の条件下にペットの面会を認めることといたしました。このため、ペットの面会には色々な制約が伴いますが、ペットを愛する患者さんたちに喜んでいただくために全力を尽くして対応したいと考えています。

ペットの面会を希望される患者さんは予め主治医に相談していただき、主治医が患者さんの状態を勘案して面会可能と判断することが必要です。主治医の許可が得られた後、主治医から面会の要件及び面会方法についてご説明させていただきます。この条件に納得していただいた上で面会となります。まず「ペット面会許可申請書」に必要事項を記入して提出していただきます。この申請書には、ペット面会に際してのリスクについて理解し、了承されたか、家族に確認を求める同意欄もあります。

主治医の許可および患者さん本人とご家族の同意が得られた後、面会当日にペットの健康チェック表に健康状態を記入して提出していただきます。ペットも健康であることが前提となりますので、ご理解ください。

ペットの面会の実現には、院内の整備が必要なためもう少し時間を要しますが、楽しみにお待ちしております。



【カラパイアのHPから引用】
カラパイアURL: <http://karapaia.livedoor.biz/archives/52216711.html>

お知らせ
島大病院ニュース

平成28年6月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース
2016年6月

お知らせ

ダ・ヴィンチによる腎部分切除術について

しいな ひろあき
泌尿器科 教授 椎名 浩昭

本年4月より原発巣が7 cm以下で転移病巣のない腎悪性腫瘍に対して「ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術」が保険適応となりました。本術式により、腎がん患者さんの早期回復と早期社会復帰に貢献することが可能となります。

腎がんの手術には全摘術と部分切除術があり、後者は小径腎癌に対する治療法として一般的になりつつあります。腹腔鏡を用いた腎部分切除術は低侵襲性手術として、保険診療で認められています。その最大の利点は小さな傷と術後疼痛の軽減ですが、使用する鉗子の低い利便性から、迅速かつ確実な切除と縫合は困難とされてきました。当院で行う「ダ・ヴィンチサージカルシステム」を用いた腎部分切除術では、ロボット手術の利便性を踏襲しつつ、CT画像処理ソフトVINCENTを用いて腫瘍血管と病変部の詳細な把握を術前に行い、術中には超音波診断装置を併用し三次元構造の再確認を行い、より確実性が高く、合併症の少ない手術を実現することが可能となりました。

従来の腹腔鏡下手術の欠点を補い、より安全で身体への負担が少ない本術式の適応となる患者さんがおられましたら、是非とも当科にご紹介頂きますようお願い申し上げます。

術者コンソール



サージカルカート

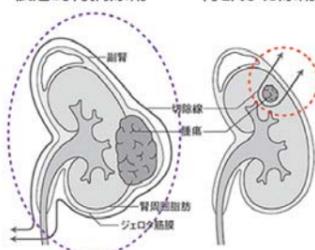


ビジョンカート



ダ・ヴィンチサージカルシステムの外観を示しています。ダ・ヴィンチシステムは、ロボットの操作台である術者コンソール、ロボット本体であるサージカルカート、およびビジョンカートから構成されます。

根治的腎摘除術 腎部分切除術



根治的腎摘除術と腎部分切除術の相違を模式図で示したものです。前者では腎臓全体を摘出しますが、後者では腎臓の一部分のみを切除し大部分の正常腎臓は残すことが可能です。



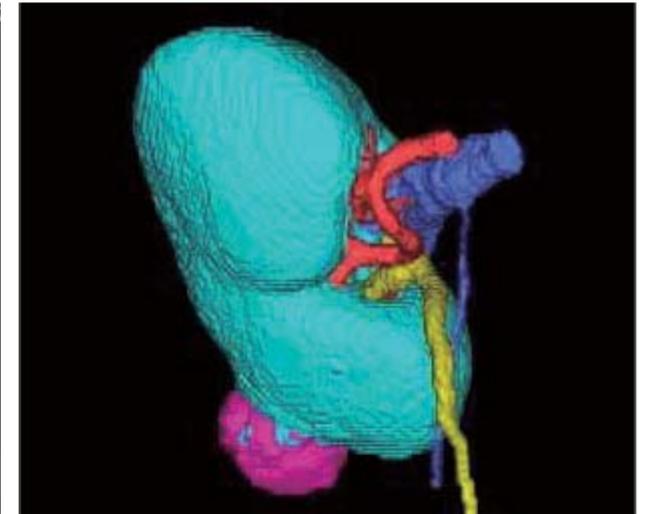
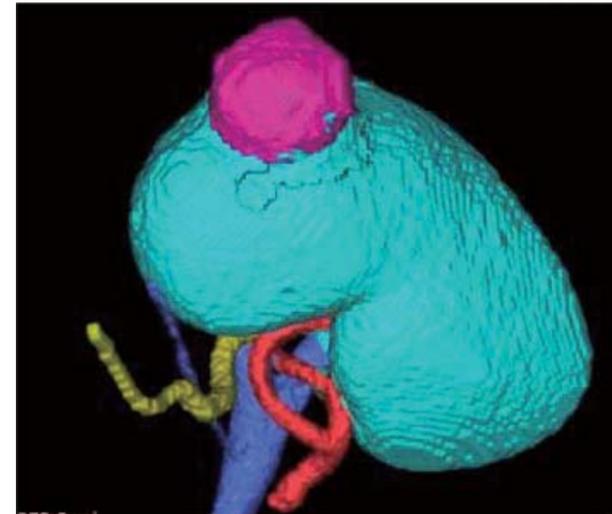
ダ・ヴィンチシステムを用いた腎部分切除術を行っているところです。実際にコンソールでロボットを操作する術者以外に2人の助手が手術に参加します。



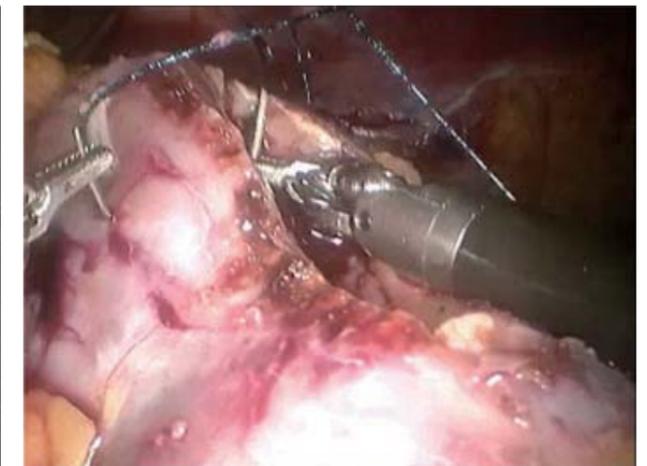
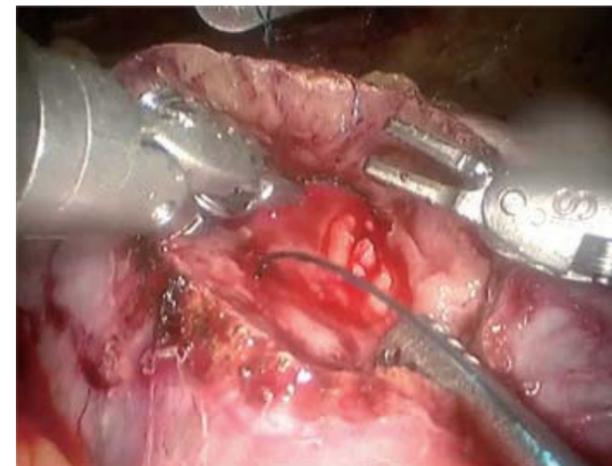
島大病院ニュース 2016年6月

お知らせ

ダ・ヴィンチによる腎部分切除術について



術前に撮影したCTを画像処理ソフトVINCENTを用いて再構成しておき、手術室では実際の術野画像とVINCENTで再構成した画像を比較し、腎静脈(青)、腎動脈(赤)、尿管(黄色)および腫瘍(ピンク)の位置関係を確認しながら手術を行います。



腫瘍を切除した後は、吸収糸を用いて後に出血が生じないように腎臓の実質を縫合して止血を行います。

問合せ先 泌尿器科(医局) TEL:0853-20-2253

お知らせ
島大病院ニュース

平成28年6月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

